

●中部・近畿の現場から●

職員全員で作り上げた『Credo(クレド：企業理念)』。
理念と実践を大切にして、「ご利用者の笑顔」「仲間の笑顔」
「みんなの幸せ」を追求した半年間の歩み



滋賀県大津市／ニューワズ株式会社 真情（まごころ）デイ・サービス
（瀬田大萱、大江、唐崎、衣川、南志賀）の5施設 DS定員10名/日 365日運営

琵琶湖の西、滋賀県大津市にあるニューワズ株式会社は、市内に5つの「真情（まごころ）デイ・サービス」を運営しています。2009年9月に第1号店に学習療法を導入して以来、2号店以降は開所数ヵ月後に導入されています。5月現在、法人内5施設で計46名の方が学習し、6月には「脳の健康教室」も1施設で開講されました。

『クレド（企業理念）』を職員全員で作成し、常に意識して日々の実践の軸にされています。「理念」と「日々の実践」の一貫により、ご利用者、職員、地域の方が生き生きすることを目指されています。

今春、初めて「学習療法成果報告会」を開催し、ご家族、地域のケアマネジャー、地域の他施設、滋賀県・京都府内の学習療法導入施設に広く声掛けされました。学習者の変化や学習療法の効果を多くの方に知っていただきたいと願ってのことです。

学習療法の効果を実感し確信をもった新庄社長は、もっと多くの施設にも広がってほしいとお考えで、知り合いの施設に積極的に学習療法を紹介して下さっています。この1年間で東海、中部、近畿で10以上の施設で学習療法スタートの準備が始まりました。

また、5つ目の真情デイ・サービス南志賀では、地域コミュニティづくりとして「脳の健康教室」を活用した新しい取り組みがスタートしました。清水室長が、行政・自治会・ボランティア団体・大学・各戸訪問と日々東奔西走され、この会の主旨に賛同される方が徐々に集まり始めています。

今号では、価値観の共有と日々の実践が引き起こした、真情デイ・サービスの「学び」「交流」「メイクドラマ」の数々をご紹介します。



新庄社長

■学習者の変化、スタッフの変化は短期間に一気に起こる。

～昨秋からの「学び」と「実践」そして「喜び」～

新庄社長はこの半年間を振り返りながら、施設内の様々な変化や感動を嬉しそうに語られた。

「学習療法は、非常に良いものだったので導入を決めました。しかし、1年前はどの施設も25人のご利用者の内、学習者は3名程度という状態が続きました。その要因はご利用者の変化が見えず、学習療法の良さも半信半疑。新しい方にも自信をもって学習を勧められなくなっていたのです。1日1コマ程度のもは日常化できない。かえって負担感が出てくる。そこで、週2～3日以上のご利用者全員学習をしていただければ、学習療法が日常化でき、逆に負担感も感じなくなるのではと考えました。また職員が学習療法の良さを実感すれば必ず伝わるのではないかと思います。」

そして昨年秋の体験学習を企画したのです。3～6ヵ月の間真剣に学習をすれば、誰かが変わり、感動が生まれるのではないかと。心が変われば、行動が変わる。施設も変化して、生き生きするのではないかと考えてのことです。実際に、学習療法委員会（各施設から選抜）のメンバーのうち特に数人には著し

い変化がみられました。5施設でとりくむことで、どこかで成功事例が生まれ、その宝物をみんなで共有できました。週2日未満のご利用の方には諦めていましたが、他の日に利用されている施設で学習が

昨秋からの主な活動

- ①学習療法お勧め企画（＝体験学習）
- ②いぶき苑見学会（3回）
- ③福岡県・愛媛県・滋賀県の施設見学
- ④学習療法シンポジウム参加（神戸、横浜）
- ⑤大阪/石きりの施設内発表会参加
- ⑥ホームスイートホームとの話し合い、交流
- ⑦「学習療法成果報告会」の開催
- ⑧「報告会」後の滋賀県施設交流会（滋賀県学習療法研究会準備会）
- ⑨岐阜/垂井町での川島隆太教授講演会といぶき苑職員との交流会
- ⑩滋賀県内脳の健康教室の東近江市と願乗寺の見学
- ⑪「Credo(クレド)」実践発表会」の開催

学習者数の変化

2011年5月	2012年5月
9人(3施設)	46人(5施設)

*カッコ内は法人内導入施設数



クレドカード
日々、意識し、実践する

できないか、自宅で学習できないかと皆で考えるようになったことが嬉しいです。学習者が増えることは、幸せになる方（学習者、ご家族、スタッフ）が増えることで、地域が良くなることですから

■『学習療法成果報告会』～全職員、ご利用者、ご家族、地域に感動の渦～

昨秋からの取り組みの集大成となる「学習療法成果報告会」を、3/10（土）・11（日）の2日間同じ内容で開催し、参加者はのべ92名。プログラムは、新庄社長の挨拶に始まり、古澤委員長の説明、各施設の学習療法委員会（学習療法リーダー）4名からご利用者の変化が多方面から発表された。学習療法の意義と効果、学習者の変化を、ご利用者、ご家族、職員、地域のケアマネ、県内外の他施設の方と共有し、共に喜び合い、感動の渦が巻き起こる。その一部を紹介したい。

◆「英語で学習療法」（瀬田大萱）A様、83歳（元英語教師）

デイと宿泊で施設が主な生活の場。悲観的で強い帰宅願望があり、会話は不安な内容が多く泣かれることもしばしば。日中も傾眠傾向が多い。学習開始より1ヵ月後、英語で計算をされるようになる。職員は心から「すばらしい！ステキ！」と褒め続ける。3ヵ月後には帰宅願望はなくなり、笑顔が増え表情も豊かに。自分から積極的に会話されるようになる。食事毎毎回完食で介助なし。考え方が楽観的になられた。FAB：7→9、MMSE：15→20

◆「会話をそして何よりも笑顔」（唐崎）T様、71歳。

FAB・MMSE測定不能。寝ていることが多く、会話がないう。Tさんの笑顔を見たい」と学習が始まる。学習2ヵ月後の1月2日、送迎職員がT様ご自宅の玄関で「明けましておめでとうございます」と挨拶をしたところ、T様は「おめでとうございます」と元気よく挨拶され驚く。職員以上にご家族が驚かれた。表情が豊かになり、目が合うとニコニコ顔になることが増えた。会話がずいぶん増え、挨拶されることが増えた。T様より大事なことを2つ教わった。認知症だから「できない」と決めつけてしまわないこと。もう一つはコミュニケーションの持つ力。学習療法を通じてどの利用者様にも可能性を引き出すお手伝いをしていきたいという思いを新たにされた。今後T様には、笑顔で過ごされる時間を増やし、他のご利用者との交流をしていただきたいと願っている。ご家族、地域にこのような変化や感動をもっともお伝えしていきたい。

■滋賀県導入施設の学び合いを開始！～滋賀県学習療法研究会（仮称）発足に向けて～

上記の報告会の後に、県内外の既導入・未導入施

設約15施設が集う交流会を開催した。目的は、交流や学びの場（＝ネットワーク）づくり、今後の活動提案、施設運営等の課題解決…と多岐にわたる。新庄社長は、愛媛県松山市、東大阪市の施設を訪問されたこともあり、学習療法を導入している施設の仲間づくりと、未導入施設に伝えていくことが地域のために大切であることを痛感している。大阪/老健石きりの発表で「地域への出張説明会」を知り、「これまで利用者のため、地域のためといいながらも、自分のこと自分の施設のことしか考えていなかった。自分は何て心が狭いのだろう」と思われたことが契機となった。

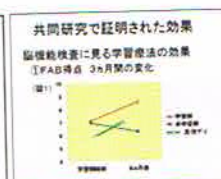


■クレド（企業理念）実践発表会

～笑顔で地域をいっぱい。幸せを広げていきたい。世界に通用する高齢者サービスをめざして～

『クレド（企業理念）』1周年の集大成となる実践発表会が6/7（木）・8（金）の2日間、全社員参加で開催された。『クレド』を軸にした、5施設の実践発表、6つの委員会からの発表、そして表彰式。どの発表もご利用者が主役で職員全員が実践者となっており、発表者が夢や目標を生き生きと語られたのが印象に残る。

「くもん学習療法委員会」からの発表：昨年秋から再起したが、そこから3ヵ月後、6ヵ月後の全体評価。FABでは79%、MMSEでは69%の方が維持・改善というすばらしい結果となった。二つのスケールを合わせると全32名中、1名を除いて維持・改善している。来年のシンポジウムで発表したいと意気込みを語る。



学習療法委員会の発表

人事評価、クレド、人の変化・成長、日々の実践、学習療法の全てが繋がっている発表となった。新庄社長からは、「人の幸せの追求、人の変化・成長でビジョンを実現させたい。そして日常全てのことに感謝の気持ちで臨みたい」との力強いメッセージが寄せられた。その延長上には「世界に通用する高齢者サービスをつくりあげたい。みんなの幸せをさらに広げていきたい」という大きなビジョンが存在する。真情デイ・サービスは一貫した「理念」と「実践」により、そのビジョンに向かって全員で進み続けている。